

関宿城博物館周辺の植生の近況（2009年）

岩槻 秀明

（1）はじめに

前号までの研究紀要では、関宿城博物館周辺、特に、利根川と江戸川の分流点付近の河川敷や堤防の植生について、2008年までの実地調査で確認できていることについて、総論的なことを記述した。その後、1年が経過し、植生について新たな発見や変化が見られているので、本稿では、2009年中の調査で確認できたもので、主だったものをピックアップし、話題として列挙することにした。

（2）調査日・方法・場所

2009年は以下の日に調査に入った。

- （1）2009年 3月20日
- （2）2009年 4月 8日
- （3）2009年 4月19日
- （4）2009年 5月10日
- （5）2009年 6月 3日
- （6）2009年 7月17日
- （7）2009年 9月12日
- （8）2009年 9月20日
- （9）2009年10月13日

2009年も、2008年以前と同様に歩きながら、目につくものをきめ細やかに写真で記録していった。2008年以前の調査である程度植生が分かっており、その報告は、前号にて報告した。そこで、本稿では2009年に新たに確認した種及び、

変化がみられたものについて話題にしていきたいと思う。

筆者は、かなり広域にわたって、利根川や江戸川の植生を調べているが、本稿で対象とする調査地点は、関宿城博物館周辺の利根川、江戸川分流点付近の河川敷及び堤防、また、中之島公園とする。

（3）2009年にかけての話題

1. ワタ、スイカ

2009年9月12日の調査で、河川敷の砂地の部分に、数個体スイカ *Citrullus lanatus* (Thunb.) Matsum. et Nakai が逸出し、開花しているのを確認した。恐らく、ピクニック等でスイカを食べて、その種子がこぼれ、それが発芽したものであろう。この手のものは他にトマトなどで見かけるがいずれも一時帰化に留まり定着しないので、このスイカも一時的なものと推測される。

また、同様に作物の帰化として、ワタ *Gossypium arboreum* L. var. *obtusifolium* (Roxb.) Roberty を2006年から2008年にかけて確認している。2009年の調査では確認できていないが、2010年はまた発生する可能性も否定できず、一時帰化ではなくこの場所に定着しているかもしれない。

2. ショクヨウガヤツリ

新たに見かけるようになったものとしてショクヨウガヤツリ *Cyperus esculentus* L. がある。ショクヨウガヤツリは別名キハマ

スゲである。ヨーロッパ、アジア、アフリカなど広域に分布する帰化植物で、関東地方では1990年以降発生している。塊茎で盛んに繁殖する。

2008年以前はほとんど見かけなかったものの、2009年9月～10月にかけての調査では、広範囲に結構な数が侵入しているのを確認した。

2009年はさらに、野田市内の別な場所の利根川、江戸川河川敷でも、ショクヨウガヤツリが散発的に発生しているのを確認しており、今後、個体数が増え定着する可能性がある。

3. ノハラツメクサ

2009年3月20日に博物館周辺の植生を調べた際に、駐車場の植えますの一角に、ヨーロッパ原産の帰化植物であるノハラツメクサ *Spergula arvensis* L. var. *arvensis* が数個体発生しているのを確認した。2010年以降再び発生するかどうかはわからないが、初確認なので記録として載せておくことにした。

近縁のオオツメクサ *Spergula arvensis* L. var. *sativa* (Boenn.) Mert. et W.D.J.Koch に酷似し、外見だけでは識別が難しいが、ノハラツメクサの種子には微細な突起があり、オオツメクサのそれには突起がない。種子を見ると区別できる。

2009年3月20日調査時、未熟な種子しか確認できなかったが、それでも、種子の表面に突起があったので、このものはノハラツメクサであると同定した。

4. シマツユクサ

2009年9月20日、境河岸(茨城県境町)付近の利根川河川敷を調べていたところ、川べりの湿ったところに、シマツユクサ *Commelina diffusa* Burm.f.が群生しているのを確認した。

シマツユクサは日本では九州以南の南方系に自生するツユクサで、関東地方は本来の分布域ではない。どのようなルートで侵入したのかはまったく不明である。

シマツユクサは、他に2009年8月

26日に、茨城県坂東市内の利根川河川敷の川べりの一角に群生しているのを確認している。まだ、千葉県側では確認していないし、南方系のツユクサなので、越冬できるかどうか自体不明であるが、今後、利根川沿いに広がる可能性もあるので、動向に注意が必要である。

5. イヌハギを確認

2009年9月12日の調査時、河川工事用道路のわきにイヌハギ *Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Siebold ex Maxim.が1個体開花しているのを確認し、写真に収めた。筆者がこの場所でイヌハギを確認したのは今回初めてである。しかし、その後、草刈りによって消滅してしまい、1回写真に収めたきり消息は不明である。ただ、この手の河川敷植物は、散発的に発生しては消滅を繰り返す性質があるので、また、何かの拍子にこのエリア内で発生する可能性は十分にあり得る。

6. メハジキが多数開花

2008年に河川敷で多数ロゼットを確認していたメハジキ *Leonurus japonicus* Houtt.が、2009年は7～9月にかけて一斉に開花した。

メハジキは2年草であり、発芽したその年はロゼットのまま越冬し、翌年開花して枯死するライフサイクルを送っている。そのため、2008年中に発生したメハジキは、当該年のあいだにはまったく開花株を見ることはなかったが、翌2009年に一斉に開花したものと考えられる。ただ、2009年には、翌年開花する予定のロゼットになるものが見当たらなかったもので2010年はほとんど開花株を見られないかもしれない。2009年開花個体によって生じた種子が無事発芽し定着すれば、今後は隔年で一斉開花が見られる形になるのではと推測される。ただし、これも環境の変化でどうなるか分からないので、継続観察してまた状況を報告したいと思う。

7. トウダイグサが群生

2009年4月8日調査時、博物館付近の堤防斜面で、トウダイグサ *Euphorbia helioscopia* L.が大群生しているのを確認した。このあたり一帯の堤防斜面上には、かつてからトウダイグサを確認しており、トウダイグサ自体は、珍しいものではないが、2009年はよほど条件がよかったのか、いまだかつてないくらいの見事な群生となったので記録として残しておきたい。

今後、また大群生することがあるのかどうか、また大群生するには条件があるのか等、いろいろ調べてみたいと思う。

(4) 今後の展望と課題

植生は刻々と変化をするものである。特に河川敷のようなかく乱の激しい場所では、植生がガラッと変化したり、突然思わぬ植物が発生することも多い。そのことから、利根川・江戸川分流点の植生調査は、今後も引き続きライフワークの一環として続けていきたいと考えている。

また、今後は、博物館のある千葉県側だけではなく、茨城県側の河川敷も本格的に調査し、調査対象も植物だけではなく、昆虫や小動物等、幅広くとらえ、随時レポートしていきたいと考えている。

(いわつき・ひであき 当館展示協力員)

図1 ワタとスイカ

左の写真は河川敷に帰化しているワタ。2008年10月13日に岩槻秀明撮影。
右の写真はスイカ。2009年9月12日に岩槻秀明撮影。



図2 ショクヨウガヤツリ

左の写真はショクヨウガヤツリの花。カヤツリグサに似るが、花穂は黄色を帯びる。

2009年9月10日に江戸川河川敷で、岩槻秀明撮影。

右の写真はショクヨウガヤツリの根の先についた塊茎。土壌がかく乱されると、この塊茎が拡散され分布が拡大する。2009年10月13日に岩槻秀明撮影。



図3 ノハラツメクサ

左の写真はノハラツメクサの花。

右の写真はノハラツメクサの未熟な種子。種子の表面には微細な突起がある。目盛りは1 mm。

左右の写真とも、2009年3月20日に岩槻秀明撮影。

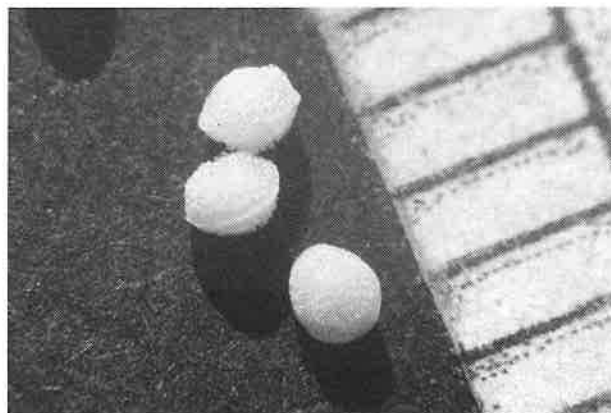


図4 シマツユクサ

左右の写真とも、シマツユクサの花。

左の写真は2009年9月20日に茨城県境町内の利根川河川敷で岩槻秀明撮影。

右の写真は2009年8月26日に茨城県坂東市内の利根川河川敷で岩槻秀明撮影。



図5 イヌハギ

左右の写真とも、イヌハギの花。2009年9月12日に岩槻秀明撮影。



図6 メハジキ

左の写真はメハジキのロゼット。2008年10月13日に岩槻秀明撮影。

右の写真はメハジキの花。2009年7月17日に岩槻秀明撮影。

メハジキは2年草で、発芽最初の年は開花せずロゼットで越冬、翌年に開花する。

2009年は左の写真のようなロゼットはなかったため、2010年にはメハジキの花は見られない可能性が高い。

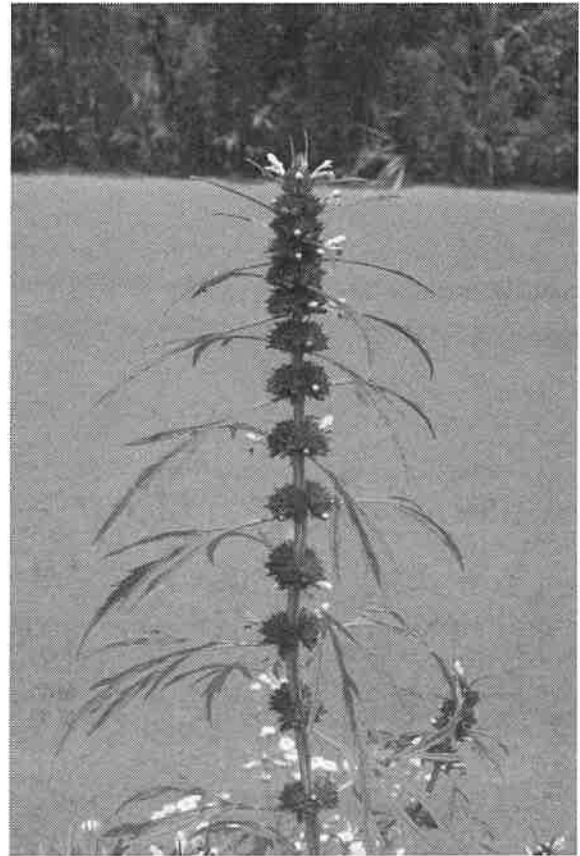


図7 トウダイグサ

もともと博物館周辺の堤防上にはトウダイグサが見られたが、2009年には、かつてないくらいの大群生となった。2009年4月8日に岩槻秀明撮影。

